

# 民憲黨の積極的運動を起す

## 聲明



我等の階級、労働農民は遂に分裂した。去る十月二十四日黨の第四回中央執行委員会は、黨の構成に異論を挟んで、過半数の中央執行委員書記長を失い、今、中央機關の立直し、支部の結束と、新入黨者の獲得とによって新陣容を形成すべく「更生」の過程を遂げようとする。一方、分裂した日本労働同盟は自ら右翼的政黨の組織を提唱し、また市電自治會、労働組合聯合會、同業同盟は政治部連絡委員會を組織した。

即ち、労働農民黨の分裂は、日本の無産大衆の要求する全國的階級的單一無産政黨の軌道を破壊して、左右兩派の對立と、中間派の一分派の形成とを將來せしめた。

### 全國的大衆的階級的單一無産政黨の破綻

惟しに世界の形勢と日本の現状は資本主義必然の歸趨としての、ブルジョアジーとプロレタリアートの最後の決戦を迫出し、日本は無産大衆による一大階級的政黨の組織と、組織労働農民大衆の政治闘争への躍進とを要求して止まない。

労働農民黨がこの要求に應じて誕生したものであることは言を俟たずして明かである。従つて、労働農民黨は組織労働農民大衆を中心として、未組織無産大衆を結合し、更に中産下層階級をも一に抱擁した所の全國的單一政黨たることを基礎的條件とした。

### 民憲黨独自の運動と無産階級政治戦線の發展

この重要な時機に當面して、我が民憲黨は、断呼として左右何れにも據らず、民憲黨の現勢を基礎とし、綱領と主張に立脚して、北九州政治運動の一大進展に努力することを決意した。即ちこれは即ち民憲黨本来の使命を徹底せしめるものであり、同時に無産階級政治戦線を正當に發展せしめ得るものたることを信ずるからである。

### 階級的立場を嚴守した過去の民憲黨とその現勢

翻つて過去一年有半に亘る民憲黨の運動は、無産大衆の要望に立脚して、自他共に認める所のものである。加之、北九州に環固なる労働農民大衆の共同戦線を張り、昨年、農民労働黨の結黨に参加して、統一階級黨たるの實を示し、次いで今年、労働農民黨の誕生するや、これを支持して今日の分裂にいたるまで、その確立に全力を傾倒してまた然る所がない。

### 大衆は民憲黨独自の運動を要求する

この犠牲と熱望をもつてして、今、労働農民黨と絶縁する。しかもこれが大衆の要求する所であり周囲の情勢がかくすることを余儀なくせしめるが故に外ならないのであつてまた如何にもすることができない。然らば大衆は如何なる政黨を要求し、また周囲の情勢は何故に民憲黨独自の運動を求めらるべきか。

### 右翼はフラスチにまで墮落する

大衆の求むる政黨とは、右翼分裂派の提唱する、個人的ブルジョア自由主義者を中心として、組織労働農民大衆を輕視した、無産階級に基礎を有せざる政黨では断じてない。この政黨は左翼と左翼支持者に對立するがために、且つ不自然なるその存在のために、完全にブルジョアの擁護者となり、また無産階級の假面を着る反動的勢力として、フラスチにまで墮落し終るべく、遂に無産階級を敵として立つものだからである。

一方、殘留したる労働農民黨は、左翼四團體への門戸開放を提議したもの、即ち左翼支持者としての組織労働農民大衆の結合であつて、未組織大衆と中産下層階級とを抱擁すべく、あまりに理想に過ぎると觀られる。

かくて、大衆の求むるものは労働農民黨の分裂派にも非ず、殘留した現在の労働農民黨でもなく、依然として全國的階級的大衆的單一無産政黨たることを要求する。

### 民憲黨は大衆の要求を具備した地域的暫定的地方政黨である

民憲黨はこの大衆の要求に應ずべく、地域的暫定的に結成したもので、若し全國的政黨成立の際は、直ちにこれに参加すべく、これら一切の條件を具備したる地方政黨である。この故に混沌の時局に當面して、北九州の無産大衆は民憲黨の存立を熱望し、その發展を冀い、次で全國的一大政黨に結合することを求める。

### 民憲黨は階級的裏切者を排撃する

即ち、民憲黨独自の運動とその進展とは、かくの如き理由によつて重用なる意義をもつものである。従つて、かの組合主義の絆に縛られ、労働農民黨の政治戦線を擴大し、飛躍的に發展せしめて、遂に白熱的闘争にまで導くであらう。

民憲黨は無産大衆の政黨である。民憲黨独自の運動と進展とは大衆の要望に基づくものである。この故に積極的民憲黨独自の運動は、北九州無産大衆の政治戦線を擴大し、飛躍的に發展せしめて、遂に白熱的闘争にまで導くであらう。

労働農民黨の分裂に當面して、敢て民憲黨の態度を聲明する。

### 積極的に民憲黨独自の運動を起せ!

無産大衆の政治戦線を擴大せよ!

一九二六年十一月

## 民憲黨中央委員會